

大津企業景況調査報告書

(第70回)

平成27年 7月～ 9月期 実績

平成27年10月～12月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成27年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	14社	70.0%
製 造 業	10社	9社	90.0%
卸 売 業	10社	9社	90.0%
小 売 業	30社	26社	86.6%
サービス業	30社	27社	90.0%
合 計	100社	85社	85.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成27年7月～9月とし、調査時点は平成27年9月9日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感は小幅改善するも足踏み状態

平成 27 年 7 月～9 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は小幅改善するも足踏み状態である。全体の業況判断 DI（前年同期比）は▲7 と前四半期から 10 ポイント改善した。業種別では、建設業が公的助成等によりプラスに改善、製造業は原油安や円安を背景に小幅改善した。卸売業もプラスに改善したが小売業とサービス業は依然マイナスの横ばい。円安による材料高や電気料金高等の影響で採算が回復していないためとみられる。宿泊、飲食サービス業で訪日外国人（インバウンド）需要効果が少し表れているようである。

先行きは慎重な見方で、業況判断 DI は▲17 とやや悪化すると見込んでいる。業種別では、公共工事が一服する建設業は悪化を見込み、製造業も中国経済の減速等で悪化を見込んでいる。卸売業はマイナスに転じ、小売業はマイナスが続くが、サービス業はやや改善すると見込んでいる。これは宿泊、飲食サービス業が秋の行楽シーズンのインバウンド需要に期待をしている面もあるものとみられる。

□ 業況判断 DI（前年同期比）は、小幅改善するも足踏み状態

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は▲7 と前四半期から 10 ポイント改善した。業種別では、建設業が大津市のリフォーム助成等によりプラスに改善、製造業も小幅改善し、卸売業もプラスに改善した。しかし小売業とサービス業は依然マイナスの横ばい。円安による材料高や電気料金値上げ等の影響のためとみられる。

□ 売上 DI（前年同期比）は、小売業を除き前年比プラスに

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲8 から今四半期は+6 と前年比プラスに転じた。業種別にみると、小売業は依然マイナスであるが、他の業種はすべて前年比プラスに転じた。

□ 採算 DI（前年同期比）は、小幅改善。建設業が大幅改善

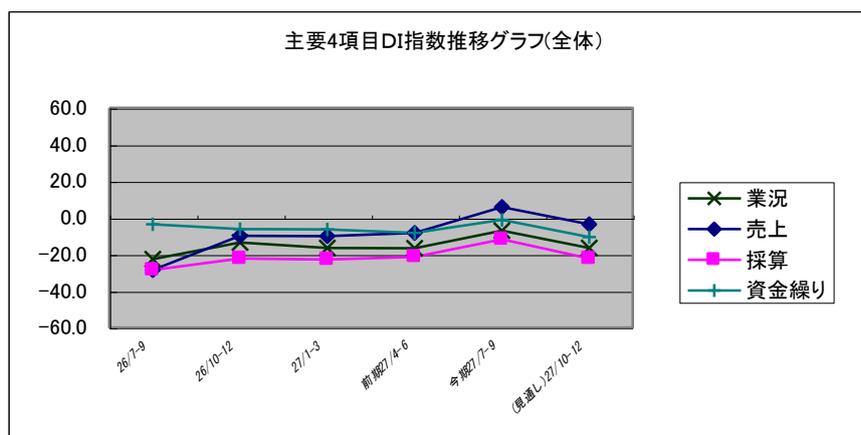
「前年同期比でみた採算(経常利益) DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期▲21 から今四半期▲12 と小幅改善した。業種別にみると、建設業が 48 ポイントも改善した。大津市のリフォーム助成等の効果とみられる。一方、製造業はやや悪化した。

□ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は、小幅改善。小売業は悪化

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲8 から今四半期▲1 と小幅改善。業種別にみると、製造業と卸売業及びサービス業が改善し、小売業は悪化した。

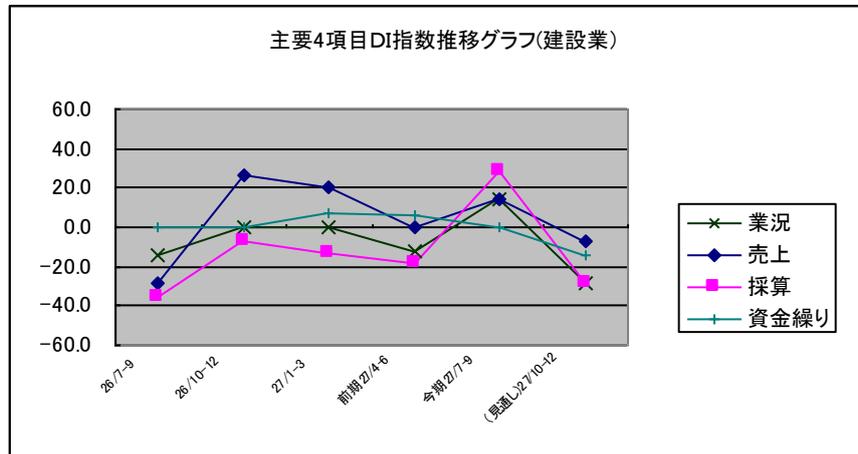
□ 従業員 DI（前年同期比）は人員不足がやや強まる

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+17 が今期+22 と人員不足がやや強まった。業種別にみると、前四半期に過剰になった製造業も含め全業種で人員不足となっている。



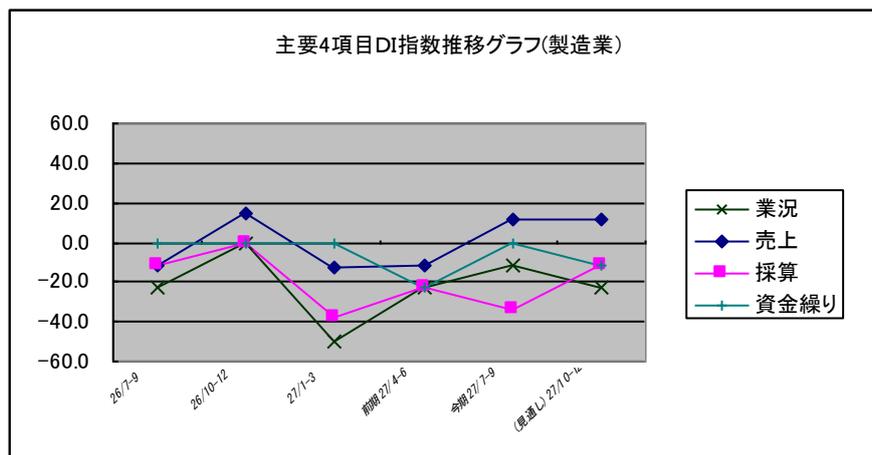
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲13 が今四半期は+14 と大幅改善した。個別指標をみると「売上」が前四半期の±0 から今四半期+14 と増加し、「採算」も大幅改善し、「採算水準」が+43 と黒字企業が増加している。取引の「問合せ」が改善していることから上記の業況判断になったとみられる。



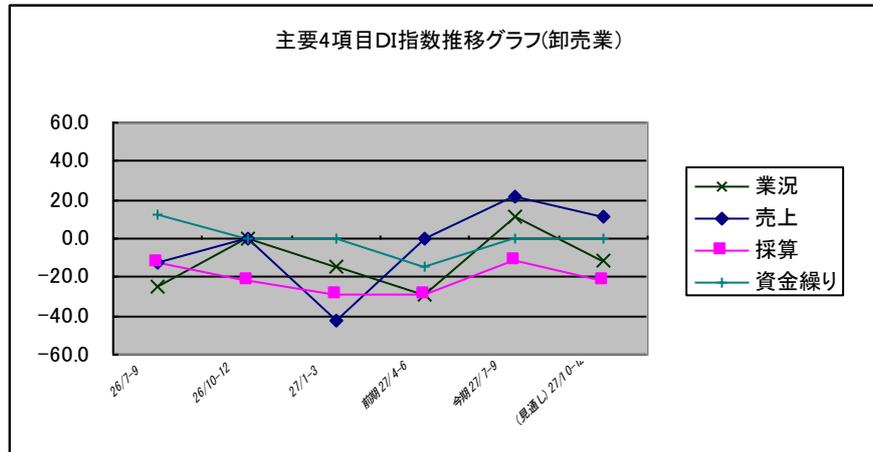
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲22 から今四半期は▲11 と小幅改善した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲11 から今四半期+11 とプラスに転じたが、「採算」は前四半期の▲22 から今四半期▲33 と悪化している。原油安や円安を背景に売上は伸びたが、電気料金の値上げ等によるコスト負担が重いため小幅増になったものとみられる。



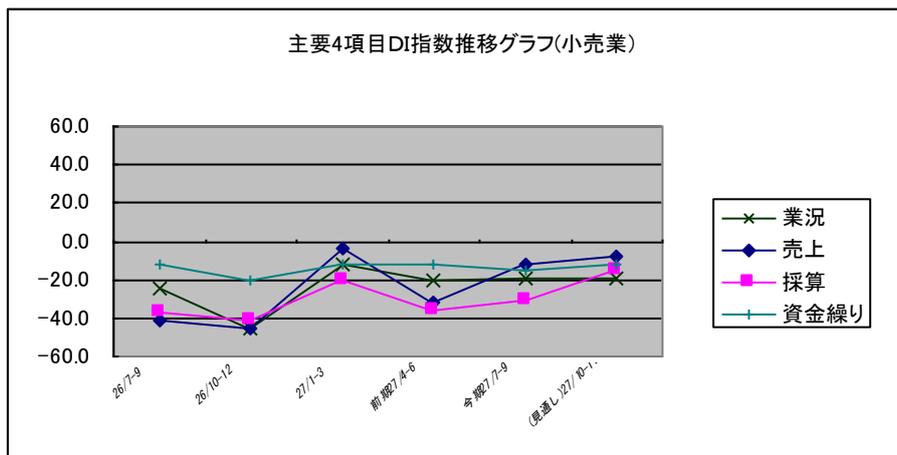
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲29 から今四半期は+11 とプラスに改善した。個別指標をみると「売上」は前四半期の±0(前年同期並み)から今四半期は+22 と増加し、「採算」も改善していることによる。これとともに「従業員」が前四半期の+14 から今四半期は+33 と人手不足感が強まっている。



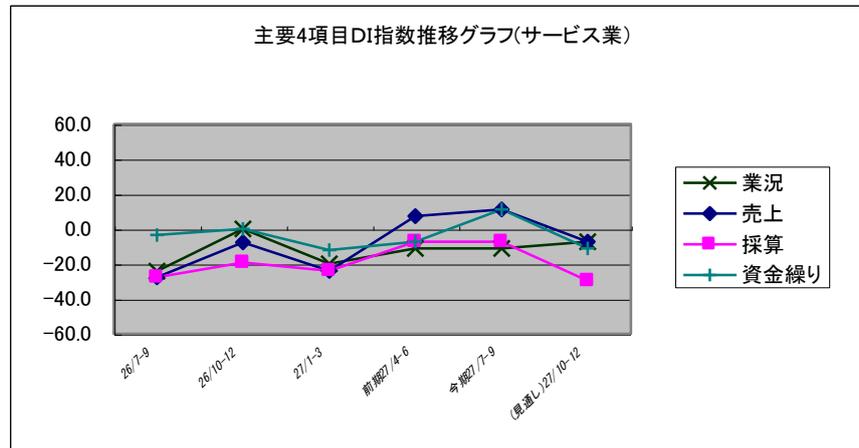
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲20 から今四半期は▲19 とほぼ横ばいである。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲32 から今四半期は▲12 と改善し、「採算」もやや改善したが、「採算水準」はまだ赤字である。「人員」は不足が続いている。個人消費が高齢者に節約志向が広がり、持ち直しが遅れている面も考えられる。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期から横ばいの▲11であった。個別指標をみると「売上」は前四半期の+7 から今四半期は+11 と少し増加したが、「採算」は横ばい。「従業員」は人員の不足が強まっている。宿泊・飲食サービス業では、インバウンド需要の効果も少しは出ているとみられる。



来四半期（3ヵ月後）の「業況」DIは、今四半期の▲7から▲17と慎重な見方である。個別指標をみると、「売上」は減少に転じ、「採算」も悪化するが「採算水準」はプラス(黒字)をキープするとみている。「従業員」は人手不足感がやや緩和し、「資金繰り」は悪化すると見込んでいる。業種別では、公共工事が一服する建設業は悪化を見込み、製造業も中国経済の減速等で悪化を見込んでいる。卸売業はマイナスに転じ、小売業はマイナスが続くが、サービス業はやや改善すると見込んでいる。これは宿泊、飲食サービス業が秋の行楽シーズンのインバウンド需要に期待をしている面もあるものとみられる。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は全体で前四半期から6ポイント減少して21%である。業種別にみると、卸売業が最も高く33%、小売業が27%、製造業22%、サービス業19%である。投資企業の投資内容の割合は、「更新投資」が39%で最も多く、「生産力増加」は33%で、うち製造業で50%である。

投資方針は、「計画通り」が44%あり、「景気により計画を見直す」の44%と同じであるが、新興国の景気減速が長引けば、設備投資計画が見直される可能性もある。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・マイナンバー導入による管理運営等で、すごく混乱しそうです。(製造業)
- ・働く人の知力、体力、精神力などの低下に伴ってリスク、コスト増が、ものを作る会社としては重たくなってきています。「依存する国民性」から「自立する国民性」に変わると良いが、安保の問題などはそれを問われている。経済でも同じだと思う。その途中にいると思います。(小売業)
- ・景気がどのように良くなっているのかわからない。高額商品の需要はあるが、突発的にあるので対応できない時がある。商品の価格帯の幅がどうしても広がってしまいます。(サービス業)
- ・アベノミクスが地方に浸透しないうちに中国経済、世界株安と悪性要因は地方にすぐに波及してくると思われるので、今後の不安が高まってくる。(サービス業)
- ・消費税上乘せ分、少しでも安くという値引き交渉が入ってくる。(サービス業)
- ・市長選挙により、12月1月の飲食利用低下が心配。(サービス業)
- ・大津市主催のリフォーム助成の物件施工が集中しているので、秋にかけて忙しい。やはり、公的助成が年2回あるとたすかる。(建設業)

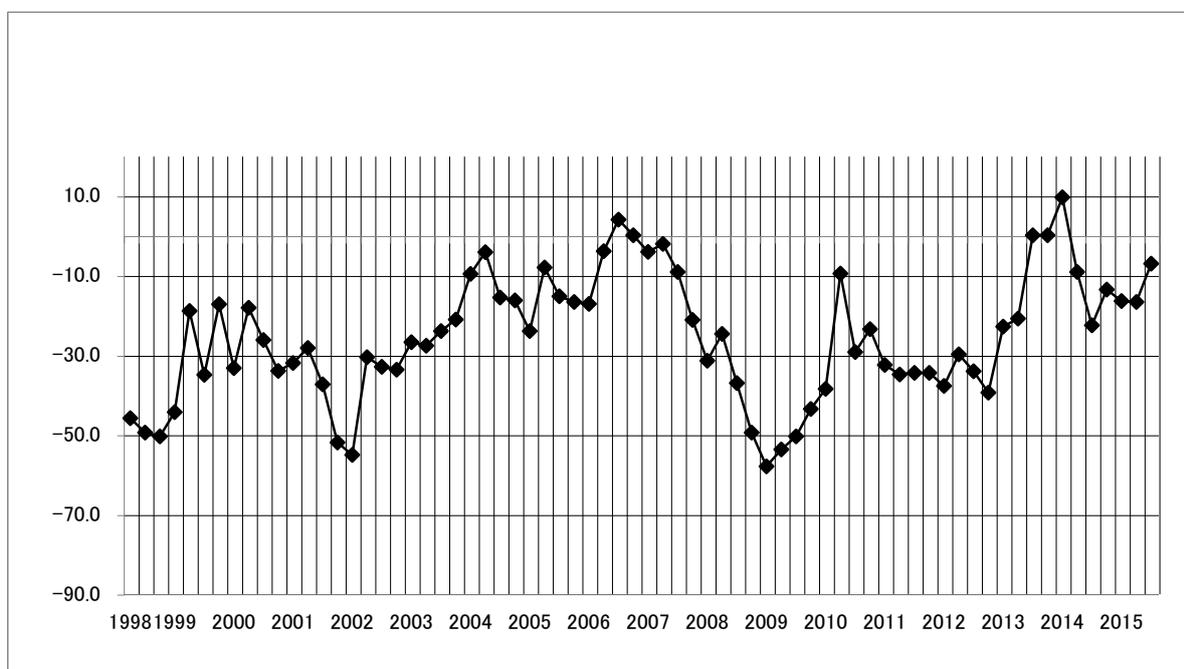
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	▲7.1	▲16.5	5.9	▲3.5	▲11.8	▲22.4
建 設 業	14.3	▲28.6	14.3	▲7.1	28.6	▲28.6
製 造 業	▲11.1	▲22.2	11.1	11.1	▲33.3	▲11.1
卸 売 業	11.1	▲11.1	22.2	11.1	▲11.1	▲22.2
小 売 業	▲19.2	▲19.2	▲11.5	▲7.7	▲30.8	▲15.4
サービス業	▲11.1	▲7.4	11.1	▲7.4	▲7.4	▲29.6
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	7.1	10.6	▲22.4	▲20.0	22.4	18.8
建 設 業	42.9	14.3	▲14.3	▲21.4	14.3	21.4
製 造 業	11.1	33.3	▲11.1	▲11.1	22.2	0.0
卸 売 業	22.2	22.2	▲22.2	▲22.2	33.3	33.3
小 売 業	▲15.4	0.0	▲26.9	▲19.2	23.1	15.4
サービス業	3.7	7.4	▲25.9	▲22.2	22.2	22.2
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し
全体	▲1.2	▲10.6	3.5	3.5	3.5	4.7
建設業	0.0	▲14.3	0.0	0.0	7.1	7.1
製造業	0.0	▲11.1	▲11.1	▲11.1	0.0	0.0
卸売業	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1
小売業	▲15.4	▲11.5	11.5	11.5	7.7	11.5
サービス業	11.1	▲11.1	0.0	0.0	▲3.7	▲3.7
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>